

45年前の酪農経営

町村氏は八雲の農民に何を教えたか！ — その3 —

八雲町 太田正治

人間に感謝する乳牛たち

朝4時半、一同、作業の用意をして牛舎に行く。乳牛も子牛も、まだ全部外だ。夜明けのバドックの中に黙々として寝ている。

お早う！お早う！ 牧夫さんたちが4人ほどやって来た。急に広い牛舎の中で活気づいて来る。

一人は、手押車（自由に方向を切れる三輪車）にサイレージ（これは一昨年つめたもの）を満載して、大きく1スコップずつ飼槽に投入して行く。すぐそのあとへ、濃厚飼料配給車が回って来て、1頭1頭牛房に掲げられてあるメモに記されたとおり秤量して、4種類ぐらいの飼料を配合しながら、サイレージの上にふりかけて行く。なかには飼料のあたらないものもある。その手際は実に鮮やかで、35頭の給飼は、ものの20分ぐらいで完了する。するともう大戸が開かれて、乳牛たちが急ぎもせずに入って来て、真中の通路から両側の各々の自分の牛房へ分れて入る。カチャカチャ、スタンションの金属性の響きがひとしきり起る。1頭ぐらい間違っ（よそ）て他所へ入るのはないかと注意していたが、ついにそんなのはいなかった。自分の飼槽はサイレージばかりだが、お隣の飼槽にはおいしい香

りの飼料がたくさんかけられている場合、我々人間でもいやしい心を起しそうだと思うのだが、この牛は更にそんな心配がなく、実におとなしく各々の分に満足している。この間、牛を叱る声を一度も耳にしなかった。

牧夫たちは、簡単に牛体にブラシをあてて、すぐ搾乳が始まる。僕たちも志願して搾らせてもらう。一人は、例の三輪車に、二番牧草を満載して飼槽いっぱい配給する。搾乳量は一々秤量されて、またたく間に集乳室の空き罐が満たされていく。このごろの1日平均の総乳量は630kgだという。1頭平均18kg強である。

朝の牛舎の仕事が一片づきするのは、6時半ころだ。

僕たちは、この大牛群が実に落ち着き払っていることを、自分の牛舎に比べて実に感心した。

十分な牧草を満腹し、水を欲しだけ飲んだ乳牛たちは、もうこれ以上何ものも望まない…というような顔をして、敷料の十分に敷かれた床に横になり、悠然と反芻を続けている。

八雲では、我々が乳牛に感謝したが、ここでは反対に、乳牛が人間に感謝しているかのようだ。

目次

- ソルガムの主要病害の診断と防除のポイント……………西原 夏樹…表②③
- 写真で見るソルガム優良品種……………表④
- 45年前の酪農経営—町村氏は八雲の農民に何を教えたか！— その3……………太田 正治… 1
- ソルゴの栽植密度と収量性……………米本 貞夫… 4
- 新品種「ビッグシュガーソルゴ」の特性とその利用……………新海 和夫… 8
- ソルガムサイレージの品質向上……………石田 聡一…14
- 自家育成を上回る育成効果をあげている浦幌町模範牧場……………高橋 清忠…17
- 札幌市におけるホウレンソウの品種と栽培……………小谷 幸司…20



サイレージ収穫適期を迎えた「ハイシュガーソルゴ」

朝の牛舎にて

この朝、町村氏が古ぼけたオーバーオールにゴム長姿で、牛舎に出てこられたのは搾乳最中だった。(牧夫君の話では、大將は、いつもなら、牧夫たちと一緒に起きて、牛舎で働かれるとのことだった。)

純血牛改良家町村氏の牛についての解説は、そういうことに無学な僕にはよく分らないが、この大牛群がだいたい2つの系統(テーチ系とアーチ系)から成っていること。町村氏は、最初、このアーチの先祖1頭から繁殖を始められたこと。今日なお、この古くからの系統は、至るところに能力を出していること。いかに「系統」ということが重要視されねばならないかということ。初産で10,260 kgの記録を出したこの牛は、その後、毎年分娩して9産目を今年分娩し、今、検定中だが、今でもなお9,000 kg台の記録は確定だろう。このように、乳牛は永く愛育し働かせるということが経済上たいせつだという話(僕はうっかりして、この名牛の名を忘れた)。自分もかつては検定の成績をあげるために、特別にむやみに食わせてみたりしたことがあったが、その結果は、故障を続発し、結局、全牛群の泌乳量は、ぐっと減った。これはいけないと悟って、以来そういうやり方はいっさいしないことにしたという話。一般農家も簡易な検定組合を作って、各自の乳牛の能力を知り、淘汰改良していかねばならない。これは、是非一日も早く実現なさいというお勧め。子牛の育て方の秘訣は、できるだけ早くエンバクの穀実(粉碎しないもの)とやわらかい二番牧草につかかせ、水を飲むことを教えるにあるということ等々。

町村氏は、昨日、畑で、「牛がかわいいからですよ」と言われたが、その気持は、今、彼が牛舎にあって、手を腰にあて、やや反り身になって、じっと牛の姿を見入っているポーズの中に、明らかに読まれる。全くこの牛群は、この親切な主人公に信頼し感謝し、満ち足りた毎日を送っている。

購入飼料と農場生産

「どのくらい飼料を購入されますか…そしてバターは、どれだけ生産されますか?」

すべてこうしたことは、町村夫人の受持ちである。夫人は、家庭の台所のみでなく、この大家畜

群の台所をも預って居られる。夫人が調べて下さった最近8か月(1月末から9月初旬まで)の購入飼料は、表のようなものであった(単価は筆者の考え)。

飼料名	数量	単価	金額
ビートバルブ	75	3.00円	225円
ふすま	313	6.10	1,909
ダイズ粕	319	4.50	1,435
米ぬか	1,179	1.80	2,112
亜麻仁粕	80	8.00	640
塩	9	2.80	25
混合飼料	5	6.00	30
カルゲン	20	3.50	70
ポラード	10	7.00	70
コブラミール	10	5.00	50
グルテンフィード	45	4.00	180
計			6,746

以上が8か月分であるから、1か月にすれば843円、1か年分を計算すれば10,116円となる。これは、消費した調査でなく、購入したものの調査だから、買いだめもあるだろうし、厳密な1か年間の消費量とは言えないが、だいたいの見当をつけることが出来よう。約1万円の濃厚飼料が補給されていることが、これで分る。前記の50 haの耕地から生産される自給飼料と、この購入飼料とで、一体どのくらいの生産をあげているかを聞いてみよう。

バター	約 15,000kg	20,000円
豚	約 100頭	3,000円
牧草の余り	約 30 t	2,000円
ほかに種雄牛・種雌牛	若干	?

種雄牛等の販売高は相当の額になるだろうが、我々には見当がつきかねる。それ以外の販売物をざっと勝手に計算してみると、25,000円ぐらいになろうか…。

×

「このごろ一番困りますのは、労力の不足でございます。2,3年前でしたら1円50銭ぐらいで先方から頼んで来たものですが、今日では2円50銭から80銭でも働き手がないという状態です。牧草収穫の時など随分困りました。飼料も高くなりましたし、経営は容易ではありません。私のところでは、種牛をやっている居りますので、どうにかやって

いけるといったところですよ」

×

これは、大所帯の会計をつとめている町村夫人の話だが、これを謙遜した夫人の話と受取るべきか、それとも実際であるかは分らない。恐らく、その両方であろう。

このようにして土地が

急速に肥えたわけが分った

僕が臆面もなく計算してみたところでは、牛の生体（種牛等）の販売を除いた他の生産物の1か年の生産は、この50 haの平均において10 a当り50円を示している。もしも雄牛の販売も計算に入れるとしたら、70円を越えはしまいか。わずか10 a当り2円50銭の金肥を施して、この生産をあげることが出来ると言えば、その土地がどのくらいよく肥え、よく管理されているか。また、金肥以外の自給肥料がどれほど多量に用いられているかを想像することが出来るであろう。しかも、この農場は、今もなお非常な勢いで年々地力を増進しつつある。（最近、アルファルファが出来るようになった例を見よ。）

一体、この地力増進の原動力は、どこにあるのだろう。石灰か、排水か、牧草の輪作か、深耕か。もちろん、それらは重要な事項ではあるが、それだけで地力を増進することは難しい。僕の見るところでは、このように土地を肥沃にしたものは、家畜の糞尿であると思う。

しかも、その糞尿には、実に1万円の濃厚飼料が入っている。飼料を牛に与えて、牛体に摂取される肥料成分は、わずか20%に過ぎないというが、仮に摂取されないで排泄したもののうちに70%の肥料成分が残るとして計算しても、実に7,000円の価値ある成分が、飼料から肥料に転化して、堆肥中に残り、これが50 haの土地に鋤き込まれていることになる。10 aに割ってみると、14円となる。これだけのものが、毎年、農場の外からこの土地に加えられるということが、それだけ地力を増していくことになるのである。

だが、こうなると、飼料を肥料に転化させる道程がたいせつである。舎飼、完全な堆肥場及び尿溜、その鋤き込みの時期・方法等々。我々のもっと注意しなければならないたくさんの方がある

のである。

八雲は今後どう行くか

八雲の農民は、過去60年間の苦闘によって、とにかくにも今日の農業を築きあげた。特に、最近20年間の飛躍的な酪農発展の歴史を省みれば、誠に涙ぐましいものを覚える。「乳牛の感謝」の碑は800の農民の感激の表現である。と同時に、この20年で一線を画して、さて、これからどう行こうかと新たな構想を練るための一ポイントとも考えるべきである。

我々が町村氏を訪問したのは、つまり、この次の20年に備えるための参考資料を得るためであった。そして、町村氏の人と、その農場とは、十二分にその目的を満たしてくれたのである。

町村農場訪問後、我々が最も強く反省させられたことは、八雲の酪農の不徹底さである。そこには、あまりにもしなければならぬ多くの事柄がある。我々は、何をしなければならぬか。その最も重要と思われる事項を次に掲げて、この報告の結びとしよう。

1 八雲の耕土の徹底的改良

(1)八雲の耕地の大部分は、その下層土が少なからず作物の根の伸張を阻害している。そして、火山灰の下にいたずらに埋蔵される腐植質土は、これを耕起改良すれば、すばらしい生産力のある耕土にすることのできるものである。このことを実証するための科学的な研究、あるいは試作・試験等を大急ぎで始めなければならない。

(2)この事業遂行には、相当の資金を必要とする。経済団体、官庁、試験場等、あらゆる経済力と知能を集めなければならない。これに用いるプラウ、動力の研究設備だけでも大仕事である。

(3)耕土改良の目標は、アルファルファが完全に発育できるまでにする。そのためには、深い耕土に比例して多量な堆肥・石灰等を施し、暗渠排水を設け、「耕土を建設」することを要する。厩肥の材料、石灰及び暗渠用材料をできるだけ廉価かつ容易に手に入るようにしなければならない。

(4)家畜糞尿の多産を図らなければならないが、そのために、家畜の舎飼を断行し、古い繫牧地は改良して、クローバ等の青刈飼料の給源に転換しなければならない。

(5)堆肥場及び尿溜の完備。

2 基礎飼料の質の改良と量の充実

(1)家畜が満足する飼料をもっと豊富に収穫しなければならない。

第一に、牧草地を改良したい。基礎飼料中の「牧草」をもっと重要視する必要がある。乾草・青草を通じて、良質の牧草（もちろん、クローバを含む）こそ「飼料の基礎」である。

(2)デントコーンの品種と栽培方法の改革を断行しなければならない。

これは、特に野田生地方の二等乳の一原因をなしている劣等サイレージの改良のために十分考慮されねばならないことである。八雲では、更に一層サイロの容積を増さねばならない。同時に、デントコーンの栽培面積を増反する必要がある。

3 手間を省き能力をあげる方法の研究は、今後一層必要なことになる

(1)秋耕及びカルチベータの研究（雑草を防ぐことと春季の労力の調節のため）。

(2)作物の単純化（販売作物の種類制限・集約栽培）と輪作。

(3)建物及び農機具の積極的施設充実。

4 生産飼料の確保

自給飼料のみの酪農は成長しない。なぜなら、それでは耕地を肥沃にすることが困難だからである。

八雲全体を町村農場のような生産力のある酪農

地とするためには、その5,000 haの耕地と、3千数百頭の乳牛数と、5,400 tの乳量とをにらみあわせて、自給飼料では不足する蛋白質の補給のために、あらゆる手段を尽さねばならない。

5 簡易乳牛能力検定組織

「八雲は、これからどう行くか」との標題に対しては、あまりに平凡極まる答えであるが、要するに、八雲は更に一層「酪農一元化」に邁進しなければならないというのが結論である。我々は、これによって、今後20年間に、八雲の瘠薄な火山灰地をすばらしい沃土にかえることができると信ずるし、これこそ、八雲農民に課せられたやり甲斐ある大事業だとも思うのである。

これらの実行は、農家各自の努力によるべきはもちろんである。が、「協力」は幾層倍にも実現の速度を増す。組合、その他我々の機関は積極的に動かさなければならないし、場合によっては、政治的活動にもまたねばなるまい。

さて、このような大事業を遂行するものは、結局、人間である。町村氏にして始めて、あの美しい50 haの農場を完成することができた。それは、氏の人格のあらわれであり、氏の学識と信念との成果である。

まず、八雲の農民は、純正な教養を持たねばならない。これは、今後、この村のあらゆる経済的・社会的理想達成の根底となるものである。

農民よ、理想あれ！ （おわり）

ソルゴの栽植密度と収量性について

千葉県嶺岡乳牛試験場 米本貞夫

はじめに

ソルゴの栽培は、土壌条件の良い畑地から、その逆の転換畑まで、また播種時期も5月から8月までと広範である。しかも利用は、青刈、サイレージあるいは冬季の立毛貯蔵と様々である。

このように広く使われている反面、トウモロコシと比べると、播種時期、栽植密度、刈取適期及び栄養価等についての研究は進んでいないのが現状ではないかと考えられる。特に、ソルゴの場合は、トウモロコシのように、温度のみでは生育